

「ゆめつげ地蔵」板野郡北島町の話

むかし、南古田村であった お話しです。

その村の人たちは、田んぼで お米を 作っていました。しかし、近くに 吉野川という 四国で 一番 大きな川が流れていて、大雨が 降るたびに、水があふれるので 困っていました。そこで、村の人たちは、とても 高い土手を 作りました。そして 「どうか、大雨が 降っても この土手が 壊れないよう 守ってください。」と 土手の上に お地蔵さんを 立てました。

ある日、夕方から 雨が 降り始めました。村人たちは、「これくらいなら 雨だったら、大丈夫だ。」と 思い、ぐつぐつと 寝てしまいました。しかし、夜中になって、雨は激しくなり、大雨になりました。すると、やがてどこからか、「川の土手が 壊れるぞー。早く逃げろ！」と 大きな声がしました。あまりにも 大きな声なので みんなは びつくりして とび起きました。川のほうを見ると 川の水が 土手の高さいっばいまで 来ていました。「これは たいへんだ。早くにげろ！」 村人は あわてて逃げました。村の人が、どうにか 高い場所にある 光蓮寺に着いたとき

「土手が壊れたぞー。」と また大きな声が 聞こえてきました。

すると 水が、川から あふれてきて、田んぼの稲や たくさんの家が 流されていきました。そのとき、ひとりの若者が 土手まで 泳いでいき、お地蔵さんを 背中に背負って 寺へ 戻ってきました。自分と 同じ大きさの 石のお地蔵さんを この大水が 流れる中、背負ってきたのだから、みんなは びっくりしました。光蓮寺のおしろうさんが 「なぜ お地蔵さんを 運んだのだ」と 若者に聞きました。すると若者は、「お地蔵さんが 夢に出てきて、土手が 壊れるぞと 教えてくださいました。それなのに このままだと そんなお地蔵さんが 流されてしまうと 思ったからです。」と言いました。和尚さんは 少し考えて、村人に聞きました。「土手が壊れるぞ、そして 土手が壊れたぞと 言ったのは誰だ？」 しかし、誰も言った人は いませんでした。「そうか、お地蔵さんだ。お地蔵さんが 私たちに 教えてくださいましたんだ」村人は お地蔵さんに 心から 感謝しました。今では 「ゆめつげ地蔵さん」と 呼ばれて、大切に 光蓮寺の庭に置かれています。そして、毎年、夏になると お祭りが 開かれています。